

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 柳田 真理子	当該科目に関する実務経験 保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 選択
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って実習に取り組めるように学ぶとともに、実習記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技能を習得する。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・ 子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 ・ 保育計画、実践、観察、記録等について実際に取り組み、理解を深める。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士としての意識を高め、技術を習得することができる。 ・ 自らの保育実習における課題を明確にして取り組み、保育者として豊かな人間性を育む。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅱに向けて (保育実習Ⅰを振り返り、課題を明確にする) 2. 実習の概要 3. 日誌・指導案について① 4. 日誌・指導案について② 5. 模擬保育① 6. 模擬保育② 7. 模擬保育③ 8. 模擬保育④ 9. 直前指導①実習の心得、マナー、留意事項の確認 10. 直前指導② 11. 直前指導③ 12. 巡回教員との面談 13. 保育実習Ⅱ振り返り 14. 保育実習Ⅱ反省会 15. 保育実習総まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ これからの時代の保育者養成実習ガイド 学生・養成校・実習園が共に学び 中央法規出版 ・ 実習の手引き 必要に応じて資料プリント配布 			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 			

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅲ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 柳田 真理子	当該科目に関する 実務経験 保育士
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保育実習の意義と目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って実習に取り組めるように学ぶとともに、実習記録に関する指導、指導案の書き方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技術を習得する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 • 実習を通して援助の方法を具体的に体得する。 • 実習を通して施設職員の役割と連携を理解する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保育士としての意識を高め、技術を習得することができる。 • 自らの保育実習における課題を明確にして取り組み、保育者として豊かな人間性を育む。 			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅰ (施設) についてのエピソードや反省点を発表する 2. 反省点についてディスカッションをする 3. 児童福祉施設 11 種類について内容を把握する 4. 障害の種類を知る 5. 実習中に起きた問題点について 6. 実習中に評価された点について 7. 着脱・排泄について (演習) 8. 車椅子について (演習) 9. 予定実習園の施設概要、実習課題、実習課題について 10. // 11. 記録方法について 12. 実習のレク活動についての準備 13. // 14. 保育実習Ⅲ反省会 15. 保育実習総まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> • これからの時代の保育者養成実習ガイド 学生・養成校・実習園が共に学び 中央法規出版 • 実習の手引き • 必要に応じて資料プリント配布 			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 考查点 (75%) • 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。 • 平常点 (25%) • 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 • 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 			